薬の窓口　No.169　岡山大学病院薬剤部　医薬品情報室発行

平成 20 年 3 月 1 日

今回は「Ｂ型慢性肝炎」についてお話したいと思います。

Ｂ型肝炎は、Ｂ型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。現在日本では、Ｂ型肝炎ウイルスに感染している人が 130 万～150 万人いるとされています。

●感染すると･･･

Ｂ型肝炎ウイルス（HBV）は、感染した年齢によってその後の経過が異なります。成人で感染した場合、急性肝炎を起こしてウイルスは体からほとんど排除され、多くはその後、治療を必要としません。しかし、出生時や乳幼児期に感染した場合、慢性肝炎となり、長期の治療が必要となることが多いといわれています。

●感染経路

昔は母子感染が主な感染経路でしたが、1986 年から防止対策「HBV 母子感染防止事業」がとられるようになり、非常に少なくなっています。現在では、性交渉による感染が問題となっており、若い年齢層を中心に感染の報告が多くなっています。

主な感染経路

●母子感染の防止

妊娠中にお母さんの血液中の HBV が、胎盤を通して赤ちゃんの血液に移ることはあまりなく、大部分は分娩時、つまり赤ちゃんが産道を通る時にお母さんの血液にさらされることによって感染が起こると考えられています。

Ｂ型肝炎ウイルスの母子感染を防止するためには、生まれてきた赤ちゃんに、Ｂ型肝炎ウイルスに対する抗体を含む「高力価ＨＢｓヒト免疫グロブリン」や「Ｂ型肝炎ワクチン」を注射することが必要です。これらの予防対策によって、ほとんどの母子感染を防ぐことができています。

●治療

Ｂ型肝炎の治療は大きく分けて、抗ウイルス療法、肝庇護療法、免疫療法があります。ここでは特に抗ウイルス療法についてお話したいと思います。

Ｂ型慢性肝炎の場合は、ウイルスを体から排除することはほぼ不可能で、治療の目的は「ウイルスの増殖を低下させ、肝炎を沈静化させること」となります。治療開始の判断は、年齢（35 歳を境目とする）、ウイルス量、炎症や線維化の程度などを評価し、決定していきます。

平成 17 年度Ｂ型慢性肝炎の治療ガイドラインより抜粋

	35 歳未満	35 歳以上
ウイルス増殖が盛ん	インターフェロン	高ウイルス：ラミブジン（エンテカビル） もしくはインターフェロン 低ウイルス：ラミブジン（エンテカビル）
ウイルス増殖が穏やか	経過観察 （進行例はラミブジン、エンテカビル）	ラミブジン（エンテカビル）

●治療薬（抗ウイルス薬）

インターフェロン療法

インターフェロンとは、ウイルスの感染を受けた時などに体内で作られる蛋白質の一種です。人工的に生産したインターフェロンを体外から注射によって補うのが、インターフェロン療法です。B 型肝炎の場合は、20～30%の人に効果があらわれるとされています。

ラミブジン治療

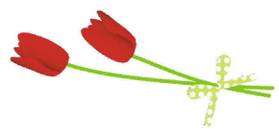
B 型肝炎ウイルスの増殖を抑制する作用のある経口薬です。ウイルス量を減らす作用が強く、また、副作用もインターフェロン療法と比較して少ないとされています。

ラミブジン＋アデホビル治療

ラミブジン治療を長期間行うと、ラミブジンの効かないウイルス(ラミブジン耐性株)が高頻度（1 年で約 20%）に出現し、改善していた肝機能値が再び悪化することがあります。その場合は、ラミブジン治療を続けながらアデホビル治療の追加を開始するか、あるいはエンテカビル治療への変更が検討されます。アデホビルもウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス作用のある経口薬です。

エンテカビル治療

エンテカビルは抗ウイルス作用がとても高い新しい経口薬です。ラミブジン耐性株に対しても効果があります。また、エンテカビルの効かないウイルス(エンテカビル耐性株)の出現も低いとされています。



＜参考＞・肝炎.net　http://www.bkanen.net/